

食と農の研究ニュース

大阪・関西万博が4月から開催され、毎日多くの入場者で賑わっています。環農水研は、2025年6月12日(木曜日)に大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージで行われた催事「大阪産(もん)を食べて元気になろう！ 大阪産(もん)のおいしい食べ方・楽しみ方」に出展し、研究成果を紹介しました。今号では、その出展内容を中心にお届けします。

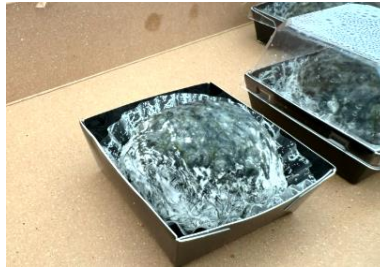
万博会場で研究成果「泉州きくなの草餅」をPR！

大阪府は「きくな(春菊)」の生産量が日本一で、『泉州きくな』としてPRしています。食品グループでは、生産量が少ない時期にも「きくな」を楽しんでもらうために、生産量の多い冬から春にかけて収穫したものを冷凍し、様々な食品への活用に取り組んでいます。今回は、この成果の一つである『泉州きくなの草餅』の試食を実施しました。試食後のアンケートでは、多くのお客様から、「きくなの風味を感じる」や「美味しい」といった感想をいただきました。

今後の「きくな」の長期保存に向けて、冷凍保存中にビタミンやアミノ酸などの成分が変化するかどうかを調査しています。(食品G 高井雄一郎)



多くのお客様で賑わう展示ブース



試食用の「泉州きくなの草餅」



アンケートの様子

万博会場で研究成果「サクラの開花調節」をPR！

大阪の北部・中部地域では古くからサクラをはじめとした切り枝花木類が生産されています。行事やイベントなどの特に需要が高まる時期に出荷し、狙ったタイミングで開花させる技術が産地から求められているため、園芸グループでは、サクラの長期貯蔵と開花調節方法の確立に取り組んでいます。

今回は、1月に収穫したサクラ(啓翁桜)の枝を冷蔵庫で約4か月貯蔵し、展示1か月前から冷蔵庫内の温度を徐々に上げ、1週間前に室温にし、万博出展日に合わせてサクラを開花させました。当日は、満開の状態で多くの方に観賞していただくことができました。

今後は低温貯蔵で開花調整できる限界時期を特定するとともに、花色の着色調整技術の開発を進めていきます。

(園芸G 大石真実)



啓翁桜



展示の様子→

本催事は2025年8月4日(月曜日)にも開催されます。

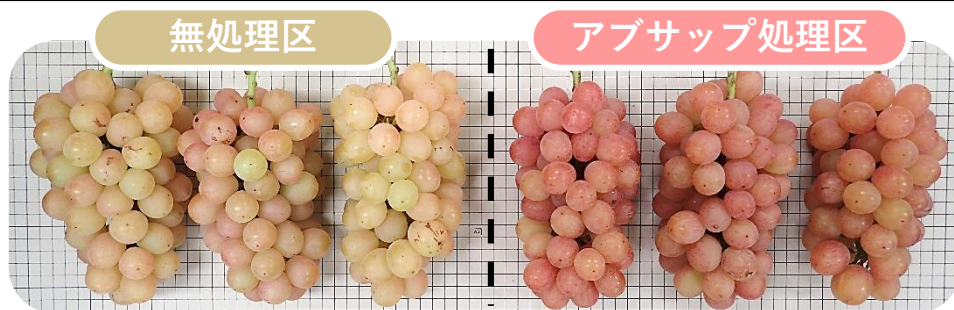
環農水研は大阪オリジナルぶどう「虹の雫」や「泉州きくなの草餅」の試食、研究成果の紹介を行います。

大阪オリジナルぶどう「虹の雫」でアブシシン酸含有液剤の適用が拡大されました

環農水研が開発した大阪オリジナルぶどう「虹の雫(品種名:ポンタ)」は、栽培条件(収穫期の夜温等)により果皮色に変化するのが特徴です。これまで、雨よけ栽培※1では赤色の「虹の雫」を作りにくかったため、果皮の着色を促進する植物成長調節剤であるアブシシン酸含有液剤(商品名:アブサップ液剤)※2の適用拡大のための調査研究に取組み、2025年3月12日付で登録されました。(葡萄G 上森真広)

※1 雨が直接当たらないように、天井のみをビニルシートで被覆したハウスを使った栽培方法

※2 住友化学(株)の登録商標



糖度・酸含量は変わりません

試験区	果皮色 (カラーチャート値)	果房重 (g)	糖度 (°Brix)	酸含量 (g/100ml)
無処理	1.4	514	21.2	0.77
アブサップ処理	3.0	516	20.9	0.71

・調査年:2021年
・作型:雨よけ栽培
・液剤散布日:7月21日(満開後63日)
・液剤の処理濃度:100倍希釈
・写真撮影日:8月20日(満開後93日)
・調査地:環農水研
(羽曳野市尺度442 標高 70 m)

※果皮色:ゴルビー用カラーチャート使用(緑(0)～濃赤(6)の7段階で評価)

適用と使用上の注意事項

アブサップ液剤(有効成分:アブシシン酸 10.0%)

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
ポンタ	着色促進	100～200倍	2～10ml/ 1果房	着色始期～ 着色開始2週間後	1回	果房散布

※ポンタ:「虹の雫」の登録品種名

(2025年3月現在の登録内容)

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- 有効成分の移行性はないので、果房全体に薬液がフワツとかかるように噴霧器などを使用して散布してください(散布後の薬液のかかり具合は、アブサップ液剤の技術資料・チラシを参考にしてください)。
- 葉に薬液が大量にかからないように注意し、果房を目がけて散布してください。



技術資料・チラシ
(PDFファイルが開きます)



最新の登録内容の確認

散布時期(着色始期)の目安



散布時期である着色始期は、果粒軟化期(満開後45～50日)が終わり、果房内の数粒が着色し始めた頃(満開後60～65日)です。

左の写真の果粒のように、スポット状に着色し始めます。虹の雫(品種名ポンタ)の着色始期は、巨峰やピオーネに比べると一見してわかりにくいので、満開後日数(60～65日)を目安にしてください。

最近の研究成果情報

<イベント>

農福連携シンポジウム「農業におけるアクセシビリティ／未来の担い手のための技術開発」(7月9日開催)

<論文>

「大阪府におけるナスすすかび病菌の殺菌剤感受性」関西病虫害研究会報2025年 67 巻 p. 73-80

「大阪府におけるシュンギク葉枯病菌のベノミル剤およびQoI剤に対する感受性」関西病虫害研究会報2025年 67 巻 p. 102-104

【食と農の研究ニュースに関するお問い合わせ先】

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部

電話:072-958-6551(代表) または [お問い合わせフォーム](#)まで →

